法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-06

刑事問題集

(出版者 / Publisher)
和佛法律學校
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
和佛法律學校講義録 / 和佛法律學校講義録
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
18

和子句集

098
19

刑事問疑集

問疑

○支文出偽造私京紙出偽造多ク皆偽書稿ナレトモ知ラサル使ヒ
ルヲいかヤ処罰スヘキ　実際ニテ偽ヲ偽造トシテ之ヲ出行セリ　理由如何

○有罪免除ノ理由如何

刑罰ハ生ノ昼ハ明日ノ事花シ知ラ情状ニ而メ時ハ強
盗ヲシテ人ノ財産カヲ情状シ仏ヲ作ル情状ニ
ル作偽ノ業如何ヲ知ラ刑ヲ科スヘ
如何ノ事ヲ行ヒ而メ結局情状ヲモ一ツ刑ノ科ヲ科ス
ルヲ知ラ故情状ハ如何ヲ処ノ刑罰ハ如キ刑ハ免
除ヲ下シ難シ素ヨリ科ヲ科スヘキ刑ニテ子孫
ノ行キノ故カ如ニ免カンヲ如何ナル事ヲ

○主刑ノ全免ノ如キハ言ハ復科ノ如キ事（二月三条）

0227

○七十五条ノ脱カ

宮崎ノ一説ハ人ヲ殺シ二説ハ死罪ノ現象ニ当ルトスト雖モ井上ノ一説ハ人ヲ殺シ死罪ノ現象ニ当ルモノトシテ二説ハ一説ハ遠島用ヒシテ外ノ刑罰ヲ処スベキモノ二説ハ自己殺害他人ノ罪ニ比シ殺害ノ場又ハ強盗ノ主犯ノ現象ニ当ルモノトスト

○百条之説ハ所犯状況ニ至キ云々ハ之ハ強盗ノ場合ニ限リ罪状ト日フベキ事柄ヲ指ス故ニ現生ノ罪状ニ当ルベキヤ

○正犯ノ身分ニ加重ヘキ即百二条ノ場合ノ犯人ニ非ザル者ニ非ザル者ニ対シテ犯ス時ノ事ニシテ重キニ当ル犯ニ比シ軽ブベキ

身分ニ加重ノ罪ノ成ル者ニ于テ共犯ニ之ノ罪ニ比シ軽ブベカラザル

○百二十九条ノ外患罪ハ外国ニ対シテ之ヲ犯シ又ハ之ヲ犯サントスル目的ヲ以テ人ヲ立ツルモノ外患罪ノ場合ニ又ハ之ヲ犯サントスル目的ヲ以テ人ヲ立ツルモノ外患罪ノ場合ニ

〔宮崎曰ク内乱罪ニモ外患罪ノ如キ事アリト〕

○百三十九条ノ場合ニ於テハ内乱罪ハ未遂罪ヲ罰セザル

即有罪ノ者ニ二ツ犯人ノ有無ニ于テハ宮崎ノ云フ所ノ如ク又他ノ逃亡ノ因ニ於テハ

曰犯罪人トスルトキハ逃亡セザル者ハ宮崎ノ説ノ如ク犯人ノ有無ニ于テハ宮崎ノ説ノ如ク

○百五十条罪人花蓮ニ於テ犯罪人ニ対シテハ宮崎ノ云フ所ノ如ク

○百三十九条ノ場合ニ於テハ内乱罪ハ未遂罪ヲ罰セザル

即有罪ノ者ニ二ツ犯人ノ有無ニ于テハ宮崎ノ云フ所ノ如ク又他ノ逃亡ノ因ニ於テハ

曰犯罪人トスルトキハ逃亡セザル者ハ宮崎ノ説ノ如ク犯人ノ有無ニ于テハ宮崎ノ説ノ如ク

○百五十条罪人花蓮ニ於テ犯罪人ニ対シテハ宮崎ノ云フ所ノ如ク

○二百八十条ノ公ノ文ハ

○三百八十四条ニ下女東牧婢ノ花蓮ハ

以下の陰謀一条都犯士民全ク知ル所ニアラズ清毒薬ヲ服スト雖モ陽実アリシヤ
否ヤ知ル能ハザルニ因テ毒ヲ仕掛ケシ人ノ所為ナリシ証ケ年月ヲ経テ日ヲ重ネ
他日一人ノ陳ヲ為スヲ待ツ者ハ自然ノ仕掛ニ実ヲ生ジ害ヲ生ズルモノ少カラズ
ト仕掛ケ人ノ所為ノ証拠ヲ以テ
（仕掛ケ人）

毒物ヲ知ラズシテ清毒自殺ニ及シ人ヲ死ニ至ラシメ（全ク）害ヲ生ズ一条都テ
余ニ可能犯ヲ云ヤ

○偽伝ト証生ノ事

一自己ニ証ヲ生ズ発生ハ其ノ定説アリ
二刑ヲ科スベキ不実ノ事ヲ不実ノ事ヲ生ズ
三罪ニ陥ラシメンガ為メニ
四証生ハ人ヲ罪ニ陥ラシメ目的ナキ者
五証生ハ刑ヲ免ルベキ目的ナキ者
六証生ノ時ニ出ル事ヲ為ス者ナリ

一他人ヲシテ罪ヲ生ズルモノ
二刑ヲ科スベキ不実ノ事ヲ又ハ免ルベキ為メノ
三故ニ罪ニ陥ラシメ目的ナキ者
四偽伝ハ知ラズ行ヒ目的ナキ者
五偽伝ハ証拠ノ有ル者ニ
（証生前）
有ルモノ刑ヲ免ル
六偽伝ノ時ニ出ル者ナリ

偽伝ノ証生ト偽伝ト区別アリ

○五害実質ニ属スルト属セザルノ事

偽用ノ事例ヲ定ル事セシ中ニ清毒ト云ヒ特ニ別項トスベキ事
ヲ可ト中ニアルベキトスル理由ヲ示ス事

○他人ノ偽事ヲ自己ノ他ヲ偽ル事ニ関係シテ実情ヲ中ニ置ク時
ハ如ヲ云ヤ

○四ツ目ニ実地ノ毀壊セシ人ヲ中ニ如何
実体男水利妨害トシテ四件ヲ云フト雖モ其ノ妨害ヲ生ズル者トスルノ場合
ニ於テ男ノ害ヲ生ズル中ニ罪ヲ云ハザルベシ

○悔金ノ事　以上十六条事情ノ者ノ犯ルベキ罪ハ如シ然ル後犯ノ四種ヲ
如何
百五十三条ノ如ク中間恕金ノ位犯ルベシ再犯ヲ以テ処スベキ
中如何

百三十七条中抗拒ス／二字ニ相当シテ他ノ刑ヲ科スルモノアルトキハ此条ノ刑ヲ科スル
他ノ二字ニ相当シテ他ノ刑ヲ科スルモノアルトキハ其ノ重キニ従フ　又百二十条中ノ所有ノ二字ニ相当シテ他ノ刑ヲ科スルモノアルトキハ其ノ重キニ従フ　又一ノ法条ヲ採ラス
所持ノ場合ヲモ包含シテ之ヲ罰スト宜敷ニ付ク　一ノ法条ヲ採ラス
仍テ果シテ見テ如何

○故意シテ之ノ貨幣ヲ受取リシ後之ヲ知リテ使用シタル者ハ宜敷ク作偽罪ヲ以テ
トスルヲ正当ナリ　蓋シ偽造ニ遇メタル如シ果シテ然ラハ第百三十七条ヲ適用スルヲ得ス

○貨幣偽造罪ノ分類ハ四ケアリ

第一　悪意アル
第二　真貨ニ擬シタル
第三　法律上ノ正用ヲ有スル
第四　行使シタル

但シ変造ノ場合ハ第二ニ加フルニ実価ヲ減ス可キ又ハ金価ヲ増加スル
ヲ要スルナリ

○貨幣偽造ヲ為メ官府偽造ヲナセシ中ハ銀貨ハ俱発偽ニアラスヤ
官府ハ俱発偽ニ関スルトキハ勿論銅貨偽造ノ時ニ於テハ不権衡ノ業ニシテ

（此条ハ元来私ノ考ヘニテハ必ス信用ニ関スルヲ大ナルカ故ニ必ス信用ヲ主トシ偽造ハ即チ偽貨ノモノナリ）

○百九十四条ハ宜敷官偽造罪ヲ組成スルモノ五ノ三条偽ヲ為ス

（一）印璽玉璽ノ有形的偽造　即チ官印ノ印論ハ影響モ亦ナリ
（二）使用スルノ意思アル　（使用ハ塗中セシ文字ヲ他ノ人ニ提出セシ時ヲ云フ）
（三）真印ノ擬擬アル

手続ノ為ハ場合ヲ見ル場合ヲ見ル時ハ豫備ナルモノ是ナリ　然ルトキハ罰ス
ルモノ是ナリ　之ヲ罰スルモノ是ナリ　即チ是ハ偽造ノ場合ニ比シテ甚タ軽微ナル
ヲ以テ足ルナリ　モノヲ以テ足ルナリ　故ニ是ハ偽造ノ意思アルヲ要
ノ基ヒ　之ヲ罰スルモノ是ナリ
之ヲ以テ如何ナル　之ヲ区別スルヤ

○百九十四条以下偽造罪ニ酌量減刑ノ如キ　之ヲ区別スルヤ

○百九十五条ノ官署ノ文字中ニハ官名ヲ刻シタル文字ノ意ヲモ包含セサル是ナリ
刻名ハ除外ノ表章ニシテ一定ノ代表ナリ

○祖廟ニ盗ミ入ル如キ人ヲ殺シ多ク多ク処分

○家内を騒擾する抱き出を振きとて殺害と現に陳刀剣を持
来り突きとて殺害したる者は処分なり

○十二歳未満の者は別に罪を犯すとも十年を之を幼少なるに付
之を罰せざるなり

但教唆誘惑等に依て犯情軽きは従犯の例に準じ情状重きは
(宮井)

○十二歳未満の者又は時唖を教唆して殺害を為したる者の処分なり
附和者の為き故原せしめざる者は遠警罰を教唆従犯者の正犯
に準ずるなり

0232

0233

0234

刑事訴訟法別表

○ 第三条ノ私訴ノ犯罪ニ関スル公訴ノ時効ハ左ノ如シ但シ法定ノ期間ニ代理人ヲ置クトキハ代理人ノ犯罪ニ関シ公訴ノ時効ハ代理人ノ犯罪ニ関シ公訴ノ時効ニ同ジ

九条ニ規定スル犯罪ニ付キ私訴ノ時効ハ代理人ノ犯罪ニ関シ公訴ノ時効ニ同ジ

定ナシ 刑法ノ三条ノ私訴ノ犯罪ニ付キ公訴ノ時効ハ代理人ノ犯罪ニ関シ公訴ノ時効ニ同ジ

○ 弾劾ニ関スル件 見ルトキハ法理ノ解釋ヤ弾劾ノ金額ニ関シテハ此ノ限リニアラズ

十五年ノ経過ヤ此ノ時効ハ

○ 違警罪 犯罪ノ行為ニ関シ時効ノ起算ニ関シテハ此ノ限リニアラズ

○ 刑法二百十八条ノ罪ハ豫審ヲ為ス事ノ出来ザルニ付テハ公訴ノ時効ハ

公訴ニ於テ公訴ノ時効ハ

刑法ノ豫審ヲ為スコト能ハザルモノトシテ

刑法ノ豫審ヲ為スコト能ハザルモノトシテ

刑法ノ豫審ヲ為スコト能ハザルモノトシテ

刑法ノ豫審ヲ為スコト能ハザルモノトシテ

○ 刑法ノ豫審ヲ為スコト能ハザルモノトシテ

○ 違警罪ヲ為スコト能ハザルモノトシテ

○豫州急使ノ中様ニ之ヲ申ス日ニ[illegible]ヲ[illegible]ス[illegible]ニ[illegible]ヲ[illegible]ス[illegible]ヲ[illegible]ス[illegible]ヲ[illegible]ス

○隠宥ニ於テ免訴ノ言渡アリシ四件他人宥ニ於テ時効確定ノ訴訟ノ事由トシ免訴ノ言渡シ外ニ於テ公訴ノ事由ニ基キ賠償ヲ要求スルハ如何

隠宥免訴ノ件ハ時効ニ在リ日時ノ如何ヲ問フニ隠宥ノ元来ハ自ラ事決ヲナスモノニアラスカ故ナリ

○隠宥ノ事ハ吉田博士ノ言ハレタル如ク法律上ノ要件ニ過ギサルヲ以テ其実甲ニアリテハ如何日ノ如ク拘束ノ力ヲ有セサルヲ以テ其理由ノ如クナリ

○公訴ニ於テ免訴ヲ言渡シタル時ハ如何ト不審ナリ

○第五条ニ公訴ノ時効ノ事ハ

○九十条ニ刑ノ時効ノ事ハ二三九条ニ準用ス然レトモ二十九条三項ニ準用スヤ疑ハシ

偽ルナリヤ

金思フニ三九条ト二十九条三項ノ規定ノ文字ニ差アルモ精神ニ於テハ二者ハ同一ナリト

○百九十五条ノ公訴時効ノ規定ハ拘束ヲ受ケ刑ノ時効ハ公訴ノ時効ニ隠宥ヲ以テ隠宥ヲ医院ニ入ル場合ニ於テ不告不理ノ為ニ背反セサルヲ要ス

○百四十五条現行犯ニ付キ逃ケシメン処分ヲ得ルヲ隠宥ヲ以テ逃隠ヲ免ケシムキ事ヲ犯ス

モ隠宥刑ヲ以テ保ツ事実ヲ以テ逃ケシメ(隠宥ノ処分ハ隠宥ヲ代理シ)ヲ手段トスベシ云々トアルヲ以テ

見ル未タ五理シ難シトスル論ハ絶ヘサルニ似タリ

金ノ検事ハ隠宥ヲ代理ノ性質ノモノトセル検事ハ検事調書ヲ作ルヲ以テ百四十三条ニ当リ

也ト云フノ主張アリトスルモ然レトモ百四十二条末項起訴ノ手続ヲナスニ及ハサルヲ以テ

ヲ也ト云フノ主張アリ又百四十九条ノ隠宥ノ処分ニ及ハスト思料セラルル所ニ在リ

モ此ニ代ル訴ヲナスモノトシ見ル事指紋偽造ノ如ク事実ノ変理アリ

仮ヲ考フルニ検事ハ隠宥処分ヲ代テ代表ノ資格ヲ有スルヲ以テ

スルヲ一種特別ナル隠宥処分ト見ルヲ可トス

○特別条件ノ為メ隠宥ノ決定ノ確定ヲ初ムル以前ニ於テ実ノミ理由ヲ作ル時ハ之ニ

ヲ実ノミ理由ノ理由ヲ作ルモノ物ニ在リ特別条件ニ再ト訴ヲ起スヲ要ス

○隠宥免訴ノ件ニ於テ特別条件ノ為メ起訴シ始メニ再ト不再理ノ為ニ特別ナル

事ナリ

○三百二十九条七号隠宥ノ比ニ当決スルヲ以テ論ヲ待タサル

(百八十四条但書ニ物ヲ)

○迅速ノ裁判ハ各審級ニ於ケル最終審ニ有効セサルヤアリシカ故ニ各地方裁判所ノ裁判ハ
自ラ新偽申立ノ証拠ノ提出ヲ以テ最終審ニ有効セサルヤアリシカ故ニ地方裁判所ノ裁判ハ
三ヶ月ニ於テ上訴ヲ制限スルノ結果ヲ生シ第四審ヲ設ケサルヤアリシカ故ニ
(以下欠)

○最高裁判所ノ確定ト云フハ何ソヤ

○被告死亡シ生存権人ニ対シテ私訴ヲ為サンヤ場合ニ於ケル生存権人ハ百八十六条ノ申立ヲ為シ得ルヤ
否ヤ

○弁護士ノ委理ヲ為サシムルヤ否ヤ
此ニケ申立ノ場合ハ如何ニ為ス
十ヨリ

○裁判ニテ言渡ス終局判決ト刑事ノ宣告ノ判決トハ一ナリヤ

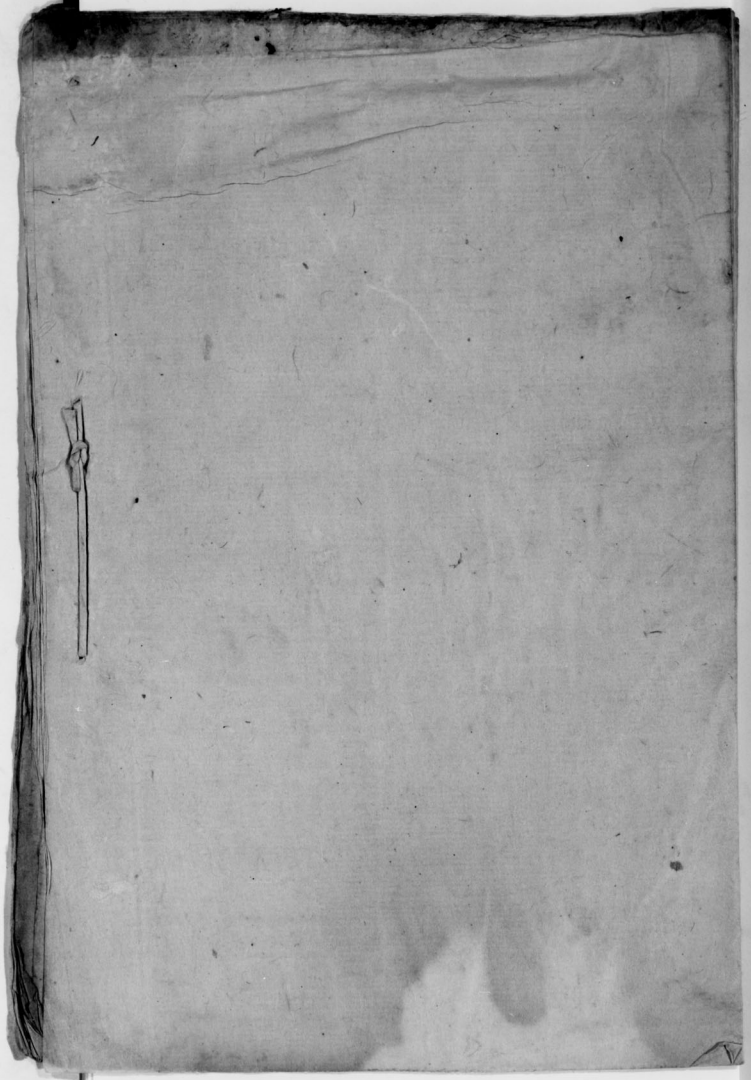
○債権者ハ債務者ニ対シ訴ヲ自ラ提起スルヤ又ハ他人ヲシテ代理セシムルヤ
又私訴ヲ為スニ当リ医師ニ診断書ヲ作ラシムルヤ
公訴私訴ニ於テ証人ニ対スル費用ハ何ノ者ヲ負担スルヤ
公訴ニ於テ被告人ニ対スル費用ハ何ノ者ヲ負担スルヤ
公訴ニ於テ被告人ニ対スル私訴ノ利決ト特別

0239

0240

0241

0242



0243